

○チューリップは、世界的にはオランダ
が有名ですが、新潟県を代表する県の花
でもあります。そして春を代表する花で
す。数年前に、私は始業式で、所報「ガ
リレイ」の表紙に使った写真を見せて
「チューリップの歌」の話をしました。
「皆さんは、この『チューリップの歌』
に、どんな意味が隠されているか、わか
りますか？インターネットなどで色々
調べていたら、この歌に隠された意味が
だんだんわかってきたのです。

そうですね、去年の大晦日に行われた
NHK紅白歌合戦でSMAPが歌った
『世界に1つだけの花』と同じ意味が、
この『チューリップの歌』にあるという
ことがわかってきたのです。この歌は、
保育園などの小さな子どもたちがよく
歌う童謡ですね。皆さんは今ほとんど歌
わないと思います。皆さんも、このチ
ューリップの花と同じです。一人一人違
う花のつぼみを持っている皆さんは、そ
れぞれに自分の美しい花を咲かせるた
めに学校で友達と一緒に勉強や運動そ
って色々な活動をしているのです。
チューリップは、赤白黄色などの花を見
ても美しいのです。赤色の花を持ってい
る人に、『白色になれー』といっても限

界があるのです。自分の持っていない色
ばかり求めず、まず自分の中にある色を
じっくり見つめ直すことから、今年度も
スタートしましょう。「」講話より抜粋
○希望に満ちた新年度を迎えられたこ
とと思います。教育センター・青少年育
成センターでは、皆さんの活躍を支援す
べく、教職員専門研修・教育相談・育成
活動などに全力を尽くします。どうぞよ
ろしくお願いいたします。

(2009年4月号)



○今年度も若い教職員が柏崎刈羽の地に多く赴任してきました。昔から、最初の1〜2校目で、“先輩からどのような指導や刺激を受け、どのような学級経営や教科指導を実践してきたかが、その後の教職人生の方向を大きく左右するとよく言われています。”

5月19日に「若手教員研修サポート事業」の発会式が教育センターでありました。教職経験のまだ浅い17名の教員が、各自の研修テーマをもとに年間のプランづくりを指導者で行いました。若葉のようにみずみずしい感性や頭脳も、鍛えることで更に大きく成長します。この事業を有効に活用して、5年後、10年後につながる資質の向上に努めてほしいと願っています。

○新学期がスタートした2ヶ月、小学校では1学期の大きな行事である運動会に、また中学校では各種大会やコンクールなどに向け部活動に熱中する子どもたちの姿が、学校通信などをおいて教育センターまで伝わってきました。

○もの本「よのすがら」の世に生まれてから死ぬまで、約20000人の人に出会いをし、別れを言わなければならない。もちろん、毎年子どもたちとの出

会いや別れを繰り返している私たちのような職業の人は、この数をはるかに超える人も、中にはいるかもしれません。さてこの約20000人に思いを馳せるとき、その中のどれくらいの人が今の自分に深く影響を与えたでしょうか？また自分はどれくらいの人に影響を与えてきたでしょうか？自分が子どもだった頃から今までをノートなりにメモし、一度整理してみるのもおもしろいと思っています。

“教え教わる”という行為は、一日一日の地道な積み重ねの連続です。でもその中に人生を左右するほどの影響を受けたり、与えたりした言葉や出来事が必ずあったはず。それらを大切にしておいて、これからも過ごしていきたいものです。(2009年5月記)



◆10年ほど前の話で恐縮ですが、県の行政機関で、青少年・家庭教育を担当させていただいております。当時、県も財政的に豊かだったせいかな、今では到底考えられないようなビッグな事業がありました。

その一つが県内各地から、応募で集まった小・中学生約320人(小5〜中3)とスタッフ80人、総勢400人による6泊7日の長期自然体験教室です。

真夏の8月に、旧湯之谷村の銀山平という俗世間とかけ離れた土地で1週間にわたるキャンプ生活を送ったのです。

子どもたちは、初めて顔を合わせる仲間と銀山湖でのカヌー、尾瀬沼ウォッチング、万年雪のある荒沢岳への観察ラリーなど、北魚沼の雄大な自然の中で様々な体験活動をしました。

最初は、ホームシックで家に帰りたがっていた小学生が、班の中学生に励まされ徐々に立ち直っていく姿や、テレビやテレビゲームとは全く無縁な生活にほとんど不自由も感じないで過ごす姿など、普段観察できない光景を目の前に、改めて子どもたちの教育環境や生活状況について考えさせられたものでした。

(今となっては、なつかしい思い出とな

りましたが・・・)

さて当教育センターでは、「自然に親しむ日」という事業を毎年数回実施しています。不足がちな自然体験や観察の場を、子どもたちに少しでも提供したいという主旨で行っています。ほとんどの子どもが親と一緒に参加しています。ほほえましい姿も時々見受けられます。各学校におかれても、なお一層自然に接する活動や学習の場を取り入れ、子どもたちの心を耕していただきたいと思っています。

(2009年6月号)



◆平成14年度から3年間、柏崎市立教育センターの所長をされていた大矢紘一先生が、先日ご逝去されました。

教育センター・育成センターの所報「ガリレイ」の前身である「ガリレオ」の創刊や、今も青年会議所と共催で行っている「柏崎の教育を語る会」など、数多くの先進的な取組をとおし、平成13年10月に若葉町へ移転してリニューアルオープンした「柏崎市立教育センター」の礎を築かれました。

私にとっては大洲小学校の先輩校長であり、柏崎刈羽障害児教育研究協議会（現在の柏刈特支協）の先輩会長でもあり、直接的・間接的に数多くのご指導をいただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、平成21年度の教育活動がスタートして、4ヶ月が過ぎようとしています。各小中学校におかれましては、校長先生のリーダーシップのもと地域や家庭と連携しながら、特色ある教育活動を展開され着実に成果をあげておられることと思います。やがて本格実施される新しい学習指

導要領では、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ活動」が重要視されてきます。「体験から感じ取ったことを表現する力」や「事実を正確に理解し伝達する力」、「概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする力」、「情報を分析・評価し、論述する力」の育成などを意識されながら、さらなる中身の充実を期待しています。

いよいよ夏休みに入りました。子どもたちも教職員の皆さんも、事故のない、楽しい充実した夏休みが送れることを願っています。

（2009年7月号）



◆お盆休み中に、何気なく電子辞書で意味を調べをしていたら、「力行」には、私たちが生きていく上で大切なキーワードになる言葉がたくさんあることに気づきました。そのことから思いつくままいくつか紹介します。

「考える」・・・考える力は、私たちに欠かせないとても大切な力の一つです。アイデアを出す。発明する。人間だけがもっている大切な能力の一つです。

「書く」・・・これも人間だけがもっている誇れる能力の一つです。書くことで、自分の考えを表現したり、まだ記録として残したりすることができます。大や猫などにはできません。

「語る」・・・自分の思っていることを語ることで、「コミュニケーション」の輪が広がります。また人間同士が理解し合い、仲良しにもなれます。

「感動する」・・・本を読んで、美しい花を見て、音楽を聴いて、テレビのドラマを見て感動する。これも私たち人間に与えられている特権です。

がもっている特権の一つです。毎日の生活の中で「感謝する」「気持ちを忘れずに過ごしたいものです。

この他にも、「クリエイター」(創造する)など、まだまだたくさんあります。

まもなく9月を迎えます。子どもたちが学校に戻り、教育活動も本格的に再開されます。昨日(きのう)よりも今日(きょう)と、確かな成長が見られるように、一人一人を粘り強く見取っていききたいものです。

【か】感性豊かで【き】キラキラして【く】クリアな心をもち【け】健康な【こ】子どもたちを育てていきますようー!!(2009年8月)



「感謝する」・・・これも人間だけ

◆先日、南中学校区地域教育懇談会

が行われた。テーマは「学校・家庭・地域の活力を生かして子どもたちに生きる力を育てよう」であった。

私は「伝統文化、ボランティア活動などの体験をとおして、子どもたちに豊かな感性を育てるために学校・家庭・地域はどのような取組が必要か」を話し合う分科会に参加させていただいた。

ご存じのように南中学校区には、綾子舞など、柏崎市を代表する無形・有形の文化財が数多くある。この分科会は、当然のように南中学校などで取り組んでいる「綾子舞などの伝承活動」に話題が集中した。各地区で行われる「奉納舞」などにも、小学校低学年のころからすでに演者として参加しているという話も聞き、素晴らしいと思いつつ、時代の流れを感じた。

この校区にも少子化の波は、着実に押し寄せてきている。過疎化に伴い、地域をあげて保存伝承活動に取り組んでいる姿が伝わり、それが子どもたちの「豊かな感性」を育てる大切な教育をしているのだと改めて感じ

た。

以前、私が勤務していた小学校の校庭に、約500年前に戦いに敗れ自刃した越後国守護・上杉房能の「管領塚」があった。その土地の長老から、上杉房能の奥方である綾子の方が、その後鶴川（女谷）に落ちのび、形見の舞として今に伝わっているのが「綾子舞」であると聞いていた。歴史の深さや重みを感じると共に、否応なく「綾子舞」への思いを巡らせてしまった。一人でも多く地域を愛し、好きになる子どもが育つことを願っている。（2009年9月）



◆赤坂山の紅葉（もみじ）も色づき始め、芸術の秋、スポーツの秋にふさわしい季節となりました。市内の各地でも文化的なイベントやスポーツ行事が盛んに行われています。

10月17日（土）夜、震災復興を祈念しての「柏崎第九演奏会」が柏崎市総合体育館メインアリーナで行われました。「柏崎第九オーケストラ」の素晴らしい演奏をバックに、公募などで編成された「ジュニア合唱団」、「第九合唱団」の皆さんが主役となり、「歓喜の歌」を高らかに歌い上げ、会場を埋め尽くした大勢の聴衆を感動で包み込みました。

例年行われている「柏崎市展」にも、多くの市民から表現力・創造力豊かな作品が寄せられました。私も、感性を磨く大切な場と位置づけ、毎年何とか出品し続けていますが、これも市民が主役になれる場の一つなのかもしれません。

先日、地区の運動会がありました。運動会といえば「綱引き」や「玉入れ」が定番の種目として、昔からどこでも行われています。これらの種目はどちらのチームが勝つにしても

ヒーローがいません、というよりヒーローが分からないのです。息を合わせた時の総力量（？）やカゴに入れた玉の総数で勝敗が決まってしまうという、いわば出場者全員が主役となれる競技なのです。

同じ集団競技でもサッカーのように主役、脇役が分かるスポーツとは少し趣が異なります。

芸術の秋、スポーツの秋、その参加の仕方や楽しみ方、とらえ方も、人それぞれですが、心を豊かにしたり、体を鍛えたりする努力だけは、これからもしていきたいと思っています。（2009年10月号）



◆後期がスタートして約1ヶ月が過ぎました。今まで経験したことがない「新型インフルエンザ」が猛威をふるい、各学校の教育活動に多大な影響を与えています。これから冬を迎え、従来の「季節型インフルエンザ」とも併せて、どのような流行経路をたどっていくのか心配でなりません。

さて最近「モンスターペアレント」という言葉を耳にするようになりました。これは学校に対して自己中心的で理不尽な要求を繰り返す保護者を意味する和製英語で、向山洋一氏の命名とされています。こうした保護者が一人でも出現すると、教職員はその対応に膨大な時間を奪われてしまいます。その結果、他の児童・生徒のための教材研究、授業準備、生徒指導、部活指導などの時間がなくなる、場合によっては学校全体にも悪影響を及ぼしてしまいます。適切な対応がされればその影響は最小にとどまりますが、担任一人が抱え込んでしまう場合などでは逆に関係がこじれたり、担任自身が体や精神を病んでしまったりする事例も珍

しくありません。

今年度上半期の教育センターカウンセリングルームの利用状況をみると、不登校や発達障害にかかわり、ネグレクトや経済困窮など家庭基盤の弱いケースが増えています。また保護者が学校や教師に対して不満や不信を訴えるケースも僅かですが増えています。

学校は、家庭・地域と共にあります。厳しい社会・経済情勢になってきていますが、お互いに信頼関係を築いた上で、連携・協力しながら児童・生徒の教育にあたりたいものです。(2009年11月号)



◆今年も残すところあと僅かとなりました。教育センターも4月以来、様々な講座やニーズに応じた支援、相談業務などを行ってきました。

先日は、京都大学大学院准教授の木原雅子先生をお迎えし、“学校における「性に関する教育」の進め方”の講演会を、保健所・学校教育課などと共催で実施しました。“「性教育」から「生(きる)教育」へ、「予防教育」から「希望教育」へ”という視点で、約2時間のお話でしたが、多くの参加者の心を捉えました。

前半は、中・高生の実態、性行動・性意識の背景などを生々しいデータを元に話されました。心に響いたのは後半でした。木原先生ご自身が小・中・高校に出向いて実践された授業のビデオを見せながら、性教育が身体や性の知識の学習にとどまらず、児童生徒の夢や希望、生き方につながる教育であること、さらに自己肯定感や規範意識を育てる、心に一生残る授業を心がけてきたことなどを具体的に話されました。

そして最後に「大人の本気の取組は、必ず子どもに伝わる、子どもの

未来は、われわれ大人のやる気にかかっている」と結ばれました。命の大切さを伝える意味でも、「性」という枠でなく、学校教育全体で進める「生(きる)教育」が、今の子どもたちに必要だと改めて感じました。やがて新しい年を迎えます。今年 は政権交代などがあり、日本も大きな変化のあった年でした。どの子どももダイヤの原石を持っています。それをどのように磨いてあげるかは、教職員一人一人の力にかかっています。更なる飛躍を期待しています。

(2009年12月号)



◆新しい年を迎えました。経済不況や雇用不安という大変厳しい社会情勢を示すかのように、年末から年始にかけて荒れ模様の天候が続きました。教育センター2階の天井も急に雨漏りがひどくなり、現在、応急処置でしのいでいます。

さて私は常々、教育職（公職）に就く人は「望遠鏡（マクロ）、全体の奉仕者」の眼と「顕微鏡（ミクロ）、専門職」の眼の両方を兼ね備えた人でありたいと願ってきました。大空から全体を見渡す眼と、地上で隅々をよく見つめる眼ということ。「鳥の眼」と「虫の眼」に例える方もいます。これは年頭所感で会田市長さんが述べられた「視野を広く持つて、そして足元をしっかりと固めてください」にも通じることだと勝手に解釈しています。

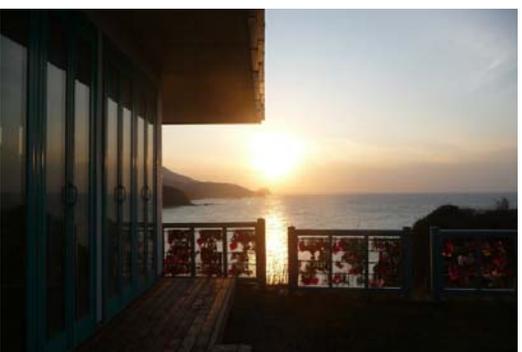
今年、柏崎市は市制施行70周年という節目の年にあたります。「復興そして新たな飛躍へ」という新たな未来に向かって「」をテーマにした様々な記念行事が予定されているようです。2月6日に開催の「柏崎の教育を語る会」も、節目の年という

ことで“マクロな眼”で、「10年後の子どもたち」を熱く語る会にしたいと考えています。

話は変わりますが、先日大雪の中、当教育センターで上越科学技術教育研究会主催の「教職員理科研究発表会」が行われました。正に“専門職”としての力量をつけるための磨き合いの場でもありました。

当教育センターも、様々な講座や活動をとおして今年も教職員一人一人のスキルアップのための支援・指導をさせていただきます。多くのご利用をお待ちしています。

(2010年1月号)



◆先日、この冬一番の寒気団が押し寄せる中、教育センターで「第8回柏崎の教育を語る会」が行われました。テーマを「夢・展望 10年後の柏崎の子どもたち」とし、「生きる力」「メディア」「体験」「規範意識」の4つの視点で青年会議所、市P連、教員、市教委と多様な立場、角度から「柏崎の教育」について熱く語り合いました。

10年後の子ども像としては、「柏崎が大好きで、誇りに思える子ども」「情報処理能力をもち、柏崎の素晴らしさやよさを発信できる子ども」「自己実現のため、自分で判断できる子ども」などが参加者からでてきました。これらを達成しつつには、学校・家庭・地域がより一層連携しながら、真剣に子どもたちと向き合っていく必要があると改めて感じました。

さて「不易流行」という言葉があります。これは松尾芭蕉が俳句の世界で使った言葉と言われています。俳句はご存知のように十七音という世界一短い詩形であるため、新しい表現を心がけないと陳腐で類型的な

句しかできないので、絶えず「流行」を追い求めていかななくてはなりません。一方、俳句として存立する不変の条件、例えば五七五の十七音形であるとか季語など、いくつかの原則（「不易」）も不変の鉄則として維持していかなくてはなりません。

学校教育にも「不易」と「流行」があることは、誰もが認めることです。「柏崎の教育」における「不易」と「流行」の部分をしっかり見極めながら、原則となる部分（学習や生活の基礎・基本）をきちんと教えるべく、新たな取組（流行）にも果敢に挑んでいきたいものです。

（2010年2月号）



◆4年に一度のスポーツの祭典、「冬季オリンピック」が多くのドラマを残して終わりました。私の教え子の一人に女子アルペンスキーで活躍しているHさんがいます。教頭時代に2年間、Hさんのクラスの体育を持たせていただきましたが、小学生の頃からすでに非凡な才能を開花させ、やがて日本を代表するアスリートに成長しました。そして4年前の「トリノオリンピック」では、出場した競技の中では日本人トップの成績を残しています。

今回も「出場間違いない」と期待していましたが、度重なるケガなどもあり、オリンピックの出場基準をとうとうクリアできず、代表には選ばれませんでした。今は、気持ちを切り替え、来年の「世界選手権」、そして4年後の「ソチオリンピック」を目指していると聞いています。

さて、人の一生にはスポーツに限らず“成功体験”や“失敗体験”がつきものです。挫折もたくさん経験しながら成長していきます。そんな中、大きな夢をかかげ幾多のハードルを乗り越えようと努力している若者が、世の中には数多くいます。たまたま運がよ

く、日の当たる場で活躍でき、その実績が脚光を浴びる人もいれば、逆にそのような場には恵まれず一生を終える人もいます。生前は全く無名だったにもかかわらず、死後その実績が評価され一躍有名になった人も、歴史をひもとくと何人もいます。

早いもので平成21年度も残りわずかとなりました。この1年間、各校で取り組まれた教育をとおして、児童生徒は新たな知識や知恵を身に付け、また様々な成功・失敗体験を繰り返し、心も体も一段と成長したでしょう。

先日、今年度末で長い歴史に幕を閉じる上米山小学校と北条南・北条北小学校の閉校式に出席させていただきました。地域に根ざした特色ある教育を实践され、多くの卒業生を世に送り出した3つの小学校の教職員の皆さん、長い間、本当にお疲れ様でした。3校の新たな旅立ちに乾杯！

(2010年3月号)

